



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

1/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

### 1. 製品及び会社情報

#### 1.1 製品情報

製品名 ティールック水和剤  
製品コード (UVP) 04398106

#### 1.2 推奨用途及び使用上の制限

使用 殺菌剤

#### 1.3 安全データシート作成者

供給者情報 バイエルクロップサイエンス  
株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5

電話番号 03-6266-7419

FAX番号 03-5219-9735

担当部門 生産本部 QHSEグループ

#### 1.4 緊急時の連絡先

グローバルインシデント対応 +1 (760) 476-3964 (Company 3E for Bayer AG, Crop Science Division)  
ホットライン (24時間対応)

### 2. 危険有害性の要約

#### 2.1 物質または混合物の分類

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアルによる分類（改訂4版）

急性毒性: 区分2

H330 吸入すると生命に危険。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分1

H318 重篤な眼の損傷。

皮膚感作性: 区分1

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖細胞変異原性: 区分1

H340 遺伝性疾患のおそれ。

発がん性: 区分1

H350 発がんのおそれ。

生殖毒性: 区分2

H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）: 区分1



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

2/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

H370 臓器（神経系，呼吸器系）の障害

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分1

H372 長期にわたる、または反復暴露による臓器（甲状腺，肝臓，呼吸器系，腎臓）の障害。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分2

H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器（神経系）の障害のおそれ

水生環境有害性(急性): 区分1

H400 水生生物に非常に強い毒性。

水生環境有害性(長期間): 区分1

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

### 2.2 ラベル要素

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアル（第4改訂版）による表示

供給/使用のための危険有害性の表示が必要である。



注意喚起語: 危険

#### 危険有害性情報

H330 吸入すると生命に危険。  
 H318 重篤な眼の損傷。  
 H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 H340 遺伝性疾患のおそれ。  
 H350 発がんのおそれ。  
 H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。  
 H370 臓器（神経系，呼吸器系）の障害  
 H372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器（甲状腺，肝臓，呼吸器系，腎臓）の障害。  
 H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器（神経系）の障害のおそれ  
 H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

#### 注意書き

P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
 P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 P284 (換気が不十分な場合)呼吸用保護具を着用すること。  
 P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
 P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 P201 使用前に取扱説明書を入手すること。  
 P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 P264 取り扱い後は手および顔をよく洗うこと。  
 P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
 P273 環境への放出を避けること。  
 P304 + P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 P310 直ちに医師に連絡すること。



## ティーク水剤

版番号 1/J  
10200007103

3/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

- P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
- P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P314 気分が悪いときは、医師の診断 / 手当てを受けること。
- P391 漏出物を回収すること。
- P405 施錠して保管すること。
- P501 内容物/容器の廃棄は地域の規則に従い行うこと。

### 2.3 他の危険有害性

粉じんは空气中で爆発性の混合物を生成することがある。

## 3. 組成及び成分情報

### 3.2 混合物

化学名又は一般名

水和剤 (WP)

危険有害成分

名称	化学名	CAS番号 / 官報公示整理番号	濃度 [%]
チウラム	ビス（ジメチルチオカルバモイル）ジスルフィド	137-26-8 (2)-1820	40.00
ペンシクロン	1-(4-クロロベンジル)-1-シクロペンチル-3-フェニル尿素	66063-05-6 4-(13)-149	20.00
石英 (SiO <sub>2</sub> )		14808-60-7 (1)-548	
Synthetic amorphous silica		112926-00-8 (1)-548	
Silica, amorphe		7631-86-9 (1)-548	
Kaolin		1332-58-7	

### 詳細情報

チウラム	137-26-8	M-ファクター: 10 (急性), 10 (慢性)
ペンシクロン	66063-05-6	M-ファクター: 1 (急性), 1 (慢性)



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

4/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

## 項目 4: 応急措置

## 4.1 必要な応急手当

## 一般的アドバイス

危険域から避難させる。被災者を安全な場所で安定な姿勢にさせること。（片側を下にして横にする）。直ちに汚染された衣類を脱がせ、安全に廃棄すること。

## 吸入

直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。新鮮な空気のある場所へ移動する。患者を暖かく安静にしておく。

## 皮膚接触

石鹼と水で十分に洗い流すこと。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

## 眼に入った場合

直ちに、最低15分間はまぶたの内側も含め、多量の水でゆすぐ。コンタクトレンズを装着している場合は、着用した状態で最初の5分間洗浄した後に取り外し、更に洗浄を続けること。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

## 飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

## 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

## 症状

今日まで、症状は知られていない。

## 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

## 取り扱い

症状に応じた治療を行う。胃洗浄は摂取後2時間以内のみ有効と考えられる。活性炭と硫酸ナトリウムによる処置は常に有効と考えらる。特に解毒剤なし。

## 5. 火災時の措置

## 5.1 消火剤

## 適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

## 使ってはならない消火剤

大型棒状の水

## 5.2 特有の危険有害性

火災の際には危険なガスが発生する。

## 5.3 消防士へのアドバイス

## 消火を行う者の保護

火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。火災時には、自給式呼吸器を着用する。

## 詳細情報

消火剤の拡散を抑えること。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

5/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

### 6. 漏出時の措置

#### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

**注意事項** 粉塵の発生を避ける。漏出した製品や汚染された表面との接触を避けること。保護具を使用する。付近の発火源となるものを取り除く。

**6.2 環境に対する注意事項** 機器の洗浄や機器の洗浄水を含む廃棄物の処理により、地表または地下の水を汚染しないでください。

#### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

**除去方法** 荷役機械を使用する。汚染された床や物を徹底的に清掃し、環境規制を遵守すること。製品を回収し、適切にラベルを貼って密閉した容器に移す。

**追加アドバイス** ローカルサイトの手順についても確認してください。

**6.4 参照すべき他の項目** 安全な取り扱いに関する情報は第7項を参照すること。  
個人用保護具に関する情報は第8項を参照すること。  
廃棄物処理に関する情報は第13項を参照すること。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

#### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

**安全取扱注意事項** 粉塵の発生を避ける。適切な排気装置が設置されたエリアでのみ使用する。

**安全取扱い注意事項** 粉じんは空気中で爆発性の混合物を生成することがある。熱や発火源から遠ざける。静電気の蓄積を防止する手段を講じる。

**衛生対策** 皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。作業服は別に保管する。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。汚れた衣服を直ちに脱がせ、洗濯し再使用すること。汚れた衣服が洗濯できない場合は、廃棄（焼却処理）をすること。

#### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

**保管場所および容器の必要条件** 乾燥した、涼しい、換気の良い場所で、容器の栓をしっかりと閉めて保管する。納品時の容器でのみ保管する。保管場所には、許可された者のみが入り出す。直射日光を避ける。

**一般的な保管について** 食物、飲み物、飼料から遠ざける

**適切な容器包装材料** LDPE（低密度ポリエチレン）

**7.3 特定の最終用途** ラベルおよび/またはリーフレットを参照すること。



## ティービック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

6/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

### 項目 8: ばく露防止及び保護措置

#### 8.1 管理濃度

成分	CAS番号	管理濃度	更新日	基準
チウラム	137-26-8	0.1 mg/m <sup>3</sup> (TWA)	05 2010	JPJSH OEL
チウラム	137-26-8	5 mg/m <sup>3</sup> (MAK)		OES BCS*
ペンシクロン	66063-05-6	5 mg/m <sup>3</sup> (TWA)		OES BCS*
石英 (SiO <sub>2</sub> ) (吸入性粉じん)	14808-60-7	0.03 mg/m <sup>3</sup> (CEILING)	05 2010	JPJSH OEL
Synthetic amorphous silica (総粉じん)	112926-00-8	8 mg/m <sup>3</sup>		
Synthetic amorphous silica (吸入性粉じん)	112926-00-8	2 mg/m <sup>3</sup>		
Silica, amorphe (粉じん)	7631-86-9	0.025 mg/m <sup>3</sup> (TLV)	04 2017	JPISHL OEL
Silica, amorphe (総粉じん)	7631-86-9	4 mg/m <sup>3</sup> (TWA)	05 2017	JPJSH OEL
Silica, amorphe (吸入性粉じん)	7631-86-9	1 mg/m <sup>3</sup> (TWA)	05 2017	JPJSH OEL
Kaolin (粉じん)	1332-58-7	0.025 mg/m <sup>3</sup> (TLV)	09 2015	JPISHL OEL
Kaolin (吸入性粉じん)	1332-58-7	1 mg/m <sup>3</sup> (TWA)	09 2015	JPJSH OEL
Kaolin (総粉じん)	1332-58-7	4 mg/m <sup>3</sup> (TWA)	09 2015	JPJSH OEL

\*OES BCS: Bayer AG クロップサイエンス部門内 "Occupational Exposure Standard"

#### 8.2 曝露防止

##### 保護具

通常の使用および取り扱い条件では、ラベルおよび/またはリーフレットを参照してください。それ以外の場合は、以下の推奨事項が適用されます

##### 呼吸用保護具

製品が封入されていない状態で取り扱われ、接触が発生する可能性がある場合:

欧州規格EN149FFP3、EN140P3、又は同等規格に適合する粒子フィルタ



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

7/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

	<p>ーマスク付き（防護係数20）の呼吸用保護具を着用すること。 呼吸用保護具は、封じ込め及び/又は局所排気装置など、発生源からのばく露の軽減対策を取ったうえで短時間の活動の残留リスクを管理するために使用すること。装着及びメンテナンスに関しては製造元の説明書に従うこと。</p>
手の保護具	<p>CEマーキング（または同等）のニトリルゴム手袋を着用してください（最小厚さ0.4 mm）。汚染されたときは洗い流し、内部が汚染されたり、穿孔されたり、外部の汚染物質を除去できないときは処分してください。食べたり、飲んだり、喫煙したり、トイレを使用する前に、頻繁 手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。</p>
眼の保護具	<p>欧州規格EN166(Field of Use;5)又は同等規格に適合する保護眼鏡を着用すること。</p>
皮膚及び身体の保護具	<p>標準的なつなぎの作業着とカテゴリ3タイプ5の化学防護服を着用すること。 重大なばく露のリスクがある場合は、より高機能の防護服を検討すること。 可能であれば、2層の衣類を着用すること。ポリエステル/綿または綿のオーバーオールを化学防護服の下に着用し、よく洗濯すること。 化学防護服が飛散したり、噴霧されたり、著しく汚染された場合は、できるだけ除染し、製造業者の指示に従って慎重に除去して処分する。</p>
一般的な保護措置	<p>適切な保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。</p>

## 9. 物理的及び化学的性質

## 9.1 物理的及び化学的性質の基本情報

形状	粉末
色	類白色
pH	8.5 - 10.5 (1 %) (23 ° C) (蒸留水) 浸せき時間 : 5 分
自然発火温度	403 ° C (1,022 hPa)
最低点火エネルギー	> 3 - < 10 mJ Apparatus MIKE 3
かさ密度	0.20 - 0.30 g/ml 公定法 (JP)
n-オクタノール/水分配係数	チウラム: log Pow: 1.84 ペンシクロン: log Pow: 4.68 (20 ° C)



## ティービック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

8/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

## 10. 安定性及び反応性

## 10.1 反応性

熱分解 301.5 ° C, 加熱速度: 10 K/min, 分解エネルギー: 748.5 kJ/kg

10.2 化学的安定性 推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性 規定の指示に従い保管・取扱いした場合、危険有害性反応は起こらない。

10.4 避けるべき条件 極端な温度と直射日光。

10.5 配合禁忌 他の容器に移し替えて保管しないこと。

10.6 危険有害な分解生成物 通常の取扱い条件下では分解生成物はなし。

## 項目 11: 有害性情報

## 11.1 毒性情報

急性毒性（経口） LD50 (ラット) 3,820 mg/kg

急性毒性（吸入） ATE (混合物) > 0.485 mg/l  
ばく露時間: 4 h  
計算による方法

急性毒性（経皮） LD50 (ラット) &gt; 5,000 mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 わずかな刺激効果 - 表示は必要なし (ウサギ)  
有効成分チラムによる値眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 眼に重傷のおそれ。 (ウサギ)  
有効成分チラムによる値呼吸器感作性又は皮膚感作性 感作を起す (モルモット)  
有効成分チラムによる値

## 特定標的臓器毒性－単回ばく露

チウラム: 入手可能なデータによれば、分類されない。  
ペンシクロン: 入手可能なデータによれば、分類されない。

## 特定標的臓器毒性－反復ばく露

チウラムは、以下の器官における動物実験において、特定の標的器官の毒性を示した: 肝臓, 前胃  
ペンシクロンは、動物実験において特定の標的臓器毒性を示さなかった。

## 変異原性

チウラムは、in vitro及びin vivo試験における遺伝毒性の重みから、変異原性及び遺伝毒性は認められなかった。

ペンシクロンは、in vitro及びin vivo試験における変異原性または遺伝毒性は認められなかった。





## ティービック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

9/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

## 発がん性

チウラム は、ラット及びマウスの試験において発がん性は認められなかった。  
ペンシクロン は、ラット及びマウスの試験において発がん性は認められなかった。

## 生殖毒性

チウラムは、ラットの2世代研究では生殖毒性を引き起こさなかった。  
ペンシクロンは、ラットにおける2世代試験において、親世代に毒性のない濃度では生殖毒性の影響は認められなかった。ペンシクロンにみられる生殖毒性は、親世代の毒性に関連している。

## 発生毒性

チウラムは、母獣に毒性のない濃度では発達毒性が認められなかった。  
ペンシクロンは、ラットおよびウサギにおいて発生毒性を引き起こさなかった。

## 詳細情報

本製品自体については、急性毒性試験のみ実施されている。  
急性毒性以外は、有効成分に関する情報である。

## 12. 環境影響情報

## 12.1 生態毒性

## 魚毒性

LC50 (Cyprinus carpio (コイ)) 0.62 mg/l  
ばく露時間: 96 h

## 水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)) 0.0641 mg/l  
ばく露時間: 48 h

## 水生無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度 (Daphnia (ミジンコ属)): 0.0992 mg/l  
ばく露時間: 21 d  
記載の値は有効成分ペンシクロンに関連する。

## 水生植物に対する毒性

ErC50 (藻類) 0.0728 mg/l  
成長速度; ばく露時間: 72 h

## 12.2 残留性・分解性

## 生分解性

チウラム:  
急速分解性がない  
ペンシクロン:  
急速分解性がない

## Koc

チウラム: Koc: 2245 - 24526  
ペンシクロン: Koc: 5667

## 12.3 生体蓄積性

## 生体蓄積性

チウラム: 生物濃縮因子 (BCF) 3.9  
ペンシクロン: 生物濃縮因子 (BCF) 226  
生物濃縮なし



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

10/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

## 12.4 土壤中の移動性

## 土壤中の移動性

チウラム: 土壤中の不動性

ペンシクロン: 土壤中の不動性

## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

## PBT および vPvB の評価

チウラム: 生物濃縮性で有毒な難分解性化学物質（PBT）とはみなされない。高生物濃縮性で高難分解性化学物質（vPvB）であるとは考えられていない。

ペンシクロン: 生物濃縮性で有毒な難分解性化学物質（PBT）とはみなされない。高生物濃縮性で高難分解性化学物質（vPvB）であるとは考えられていない。

## 12.6 その他の有害影響

## 13. 廃棄上の注意

## 13.1 廃棄物処理方法

廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等産業廃棄物に関する法律、都道府県および市町村の関連条例に従って処理すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国内規則

鉄道および道路輸送	非該当
指針番号	154
海上輸送	船舶安全法の規制に従う。
航空輸送	航空法の規制に従う。

包装、容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。

## IMDG

14.1 国連番号	2771
14.2 国連輸送名	THIOCARBAMATE PESTICIDE, SOLID, TOXIC
14.3 輸送危険有害性クラス	6.1
14.4 容器等級	II
14.5 海洋汚染物質(該当・非該当)	該当

## IATA

14.1 国連番号	2771
14.2 国連輸送名	THIOCARBAMATE PESTICIDE, SOLID, TOXIC
14.3 輸送危険有害性クラス	6.1
14.4 容器等級	II
14.5 環境危険有害性マーク	該当



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

11/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

## 15. 適用法令

## 15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

## 農薬取締法

登録番号 : 17136 (Bayer CropScience K.K.)

## 消防法

非該当

## 労働安全衛生法

## 名称等を表示すべき危険物及び有害物

テトラメチルチウラムジスルフィド 40.0%

シリカ 10.3%

## 名称等を通知すべき危険物及び有害物

テトラメチルチウラムジスルフィド 40.0%

シリカ 10.3%

## 変異原性物質（既存）

テトラメチルチウラムジスルフィド

## 毒物及び劇物取締法

非該当

## 化学物質排出把握管理促進法（PRTR）

## 第1種指定化学物質

化学名	番号	含有量 (%)
テトラメチルチウラムジスルフィド	268	40.0

## 16. その他の情報

1. 本資料の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載内容は新しい知見により改訂されることがあります。

2. 記載の注意事項は通常の取扱いを対象とした参考情報です。取扱いの際は用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。

3. 本資料は情報提供の目的のために作成されたものであり、その記載内容を保証するものではありません。

中毒の緊急問い合わせ先 : 公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒110番 一般市民向け相談電話 医療機関専用有料電話  
(情報提供料:無料) (情報提供料:一件2,000円)

大 阪 (365日、24時間対応) 072-727-2499 072-726-9923



## ティールック水和剤

版番号 1/J  
102000007103

12/12

改訂日: 2019/11/01

印刷日: 2019/11/01

つくば（365日、9時～21時対応）

029-852-9999

029-851-9999

最も最近の版以降の変更は、余白に特記してあります。この版は、これまでの全ての版に代わるものです。